

創薬におけるスパコンの講演会の実施

Implementation of lecture meeting of supercomputer in drug discovery

NPO法人バイオグリッドセンター関西 理事・事務局長 志水隆一(BioGrid Center Kansai director Ryuichi Shimizu)

研究目的：創薬におけるスパコン「京」の産業利用を推進しており、利用者である製薬企業の担当者のための講演会の開催

□「健康と疾病予防に向けたビッグデータ解析」

日時：2017年5月12日（金）13:00－17:25

場所：グランフロント大阪 北館タワーC 9階 Vislab OSAKA

(大阪市北区大深町3-1)

主催：CBI学会関西部会

共催：バイオグリッドセンター関西、都市活力研究所

主な内容

ウェアラブルデバイス等からの大量のデータ取得が可能になり、これらのデータの利用は医学や創薬科学の境界を変えようとしている。本研究会では、生活習慣や身体活動から腸内細菌叢に至る幅広いデータに関して、それらの解析に携わっている第一線の研究者に講演頂き、健康と疾病予防に向けた議論を深めた。東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 山本 雅之、医薬基盤・健康・栄養研究所 國澤 純ほか



□「薬物-標的親和性計算の新潮流 ～古典MDから量子MDへ～」

日時：2017年9月1日（金）13:00－17:50

場所：グランフロント大阪 北館タワーC 9階 Vislab OSAKA

主催：CBI学会関西部会

共催：バイオグリッドセンター関西、都市活力研究所

主な内容現在主流の古典MDの将来展望と、古典MDの限界をカバーし得るであろう量子MDの現状について、各分野の第一人者の先生方にご登壇頂き、2020年代のインシリコ創薬の在り方を考察した。



□「臨床分野におけるAI活用の可能性と実際」

日時：2017年12月22日（金）13:00－16:45

場所：グランフロント大阪 北館タワーC 8階

主催：CBI学会関西部会

共催：バイオグリッドセンター関西、都市活力研究所

主な内容：臨床系におけるデータ収集の利活用とその展望、さらには臨床系におけるAI活用の実際と可能性について現在進行しているAIコンソーシアム(LINC)の中からいくつかの事例を報告した。

